



松韻会会報

vol.1

発行:松韻会事務局
〒989-3128
宮城県仙台市青葉区愛子
中央4丁目16-1
FAX: 022-391-6144
E-mail: jimukyoku-h
@snct-dosokai.jp
印刷: (株)アクトジャパン

平成23年度総会報告

同窓会副会長(電波通信学科8期) 工藤 久志

平成23年度仙台電波高専同窓会・東北支部総会は7月16日(土)KKRホテル仙台で行われました。

今年の総会は3月11日に発生した東日本大震災の影響もあり例年より1か月遅れの7月開催となりましたが、多くの会員の出席により無事開催することができました。

当日は仙台高専の総会に引き続き、電波高専同窓会総会・東北支部の総会が行われ、議長には本科十六期の赤井澤正利氏が選任された次の議案について審議を行いました。

仙台高専総会議案

1. 平成二十二年事業報告
決算書報告及び監査報告
2. 平成二十三年事業計画(案)
及び予算書(案)

会長挨拶

大震災の後でも季節は巡り、紅葉の秋、収穫の秋を迎え、三陸の秋刀魚も福島産の梨も関係者の努力でおいしく食べられるようになりました。平穩な生活のありがたさを感じるのは私だけでは無いと思います。この平穩な生活に程遠い環境の方も多くおられますので、すこしも早い復興を祈るばかりです。

5月からの学校再開にあわせ、7月に順延した総会で、学校を通じた被災者支援活動や、松韻会という同窓会の名称が決定しました。又、10月22日には震災で中止した卒業式が「卒業会」として行なわれ、松韻会は交流会等全面的に協力を致しました。初めての取り組みでありましたが、関係各位、東北支部や事務局のおかげで



同窓会長 佐々木 勇

仙台高専同窓会総会では東日本大震災で被災した学生への義援金学校と同窓会の運営を円滑に行うための顧問の設置について審議いただき満場一致で承認されました。顧問には岡キヤンパスの総務担当副校長が選任されました。

1. 平成二十二年活動報告及び会計報告
2. 平成二十三年活動計画(案)及び会計(案)

盛大な催しになり、春の卒業生の喜びの声を聞き、共に多に喜びました。同時に行われた卒業生が学校に帰るといふ趣旨のホームカミングデーにも松韻会は出席し、懐かしい電鍵や資料、パネルなどを展示する事で、来場者を楽しませ、同窓会の啓蒙活動ができました。校長先生にも視察頂き、母校に対して一層の支援が出来るように感じます。

仙台高専同窓会は松韻会(電波)と秋朋会(宮城)が入りたしきみとなって、全体最適を見ながら、今後とも「会員による会員と学校の為の同窓会」を目指して活動してまいります。3年目に入る今年は、よりパワフルな活動の為に、皆様のご意見を御寄せ頂き、ますます宜しくお願い申し上げます。

電波高専の総会では例年通りの活動のほか、同窓会の名称変更について審議が行われ、「仙台電波工業高等専門学校同窓会」から多くのみなさんになじみの深い「松韻会」への変更が満場一致で承認されました。東北支部議案も、エコーへの応援など例年通りの活動のほか庄子支部長から出貝支部長への交代について審議され、こちらも満場一致で承認されました。

その後の懇親会では、同窓会活動を紹介したパネルの展示や同窓会HPの紹介などを行い、最後は岡キヤンパスのEメール交換を行い大盛況のうちに散会となりました。



呼称「松韻会」の経緯について

母校の統合と共に仙台電波高専同窓会は仙台高専同窓会の広瀬キヤンパス総支部となりました。

宮城は名取キヤンパス総支部ですが元々「秋朋会(しゅうほうかい)」と呼称しており、これに合わせるこ

震災後の取り組み



校長 内田 龍男

東日本大震災で特に大きな被害を受けた名取キヤンパスでは、主な建物の修復がかなり進み、残された第1体育館、武道場、グラウンドなども今年度中には完了する予定です。

広瀬キヤンパスでも建物の壁の一部や装置類などの損傷がありました。が、そのような中でも学生達は元気が、

ホームカミングデーの開催

同窓会副会長(電波通信学科3期) 大江 章

去る10月22日、母校にてホームカミングデーが開催されました。何やら聞きなれない言葉ですが、「同窓生が旧友や恩師と再会し在校生との交流を深める場」として、多くの大学でも実施しているそうです。

仙台高専に関係するすべての方を「家族」ととらえて「母校に帰ってきていただきたい」という思いから企画したものです。

当日は高専祭(広瀬キヤンパス祭)も開催され、賑やかなキヤンパスで講義棟を借りて同窓会のブースを展開

とに役員会に於いて決議されました。昨年度の総会で決議をへて、前々号で、広く会員に周知して会名を募集しましたところ、会員より「松韻会(しゅんかい)」で提案、賛同が得られました。これにより、本年度の総会において提案し、承認を得、本年度の呼称となりました。

本年度の呼称として、同時に会報名も変更いたしました。末永くご愛顧のほどをお願い申し上げます。

松韻会事務局

を取り戻して、勉学や部活動に励んでいます。特に10月16日に行われた東北地区ロボットコンテストでは、Aチームが名取キヤンパスのAチーム(昨年度ロボ大賞受賞)と対戦し惜しくも敗れましたが、その接戦ぶりが高い実力を示すものでした。またBチームは独自のアイデアと技術が認められ、本田技研工業株式会社より特別賞を受賞しました。つい先日の10月22日と23日には恒例の高専祭が執り行われ、多くの来場者が訪れて成功裡に終えることができました。今年からこの高専祭に併せて、卒業生を母校に迎え入れるホームカミングデーを開催することにしました。高専の歴史的展示物などを集めた部屋を設けて、学生時代を懐かしく振り返っていたり、多くの卒業生が訪れて頂くことができました。また、3月に卒業式がで

きなかつたため、高専祭に合わせ、10月22日に仙台高専卒業生・修了会を江陽グラウンドホテルで行いました。既に就職や進学をした卒業生・修了生の約半数が集まり、同窓会・OB等から経験を交えた有益な激励の挨拶等があり、華やかで有意義な式典となりました。またその後、祝賀会が行われましたが、同窓会や後援会から多大なご支援を頂き、心から御礼を申し上げます。以上、主だったものを記しましたが、震災から7カ月を経て、高専も落ち着きと活力を取り戻してきています。とはいえ、同窓生や学生・教職員の中にはつい日々を過ごし、今も続いている方々も少なくないと思います。皆で支え合ってこれを超え、次の新しい時代を作っていきたいと思えます。

今後ともよろしくお願いいたします。

また。ところで、来年度高専制度発足50周年の節目の年を迎えるそうです。同窓会に対してもイベントの取り組みなど、何かと期待されることになると思いますが、より一層の団結と会員相互間の親睦が必要になります。

最後になりましたが、今回のホームカミングデーに参加して頂いた会員・役員の皆様、また実施にあたり労をとって頂いた関係各位に対して深く感謝の意を表すると共に、今後とも同窓会活動に深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



関東支部懇親会 ～仙台電波を応援する会～

東日本大震災後間もない6月24日(金)に、関東支部懇親会が開催されました事をここに報告いたします。



今回で参加頂いた同窓生の多く

東北支部だより

東北支部長 出貝 隆志
(電波通信学科9期)

会員の皆さん、こんにちは。7月の総会で庄子前支部長の後任となりました出貝(高専9期)です。宜しくお願いいたします。

東北支部は設立してから未だ3年しかたつていませんので支部の存在をご存じない方もいらっしゃるかと思います。当時の高橋会長の下、組織活性化委員会が組織され同窓会活動を活性化させる方策が検討されました。その提言を受けて東北地方に在住している同窓生を会員として支部が設立されました。

支部の活動としては、現役生が参加しているロボットコンテストや電気自動車エコラン競技大会の支援、また、高専祭において同窓会のブースを設置して同窓会を紹介する活動等をして来ましたが、今後現役生学生の支援や会員の親睦を図る活動を行ってまいります。

盛大に
開催される！

関東支部長
山内 克也
(電波通信学科5期)

す。本紙面をお借りして、ここに感謝申し上げます。
末筆ながら、母校と被災された方々の一日も早い復興を祈念いたします。

は、被災された東北地方に、ご実家が、皆、口々に親族や同級生の安否に関わる情報を交換しておられました。また、被災地の復興・復興支援にすべてを捧げられないもので、かきさも言葉の端々に滲ませておられました。

懇親会の開催結果は次のとおりでした。
■期日：2011年6月24日(金)
■場所：ホテル銀座ラフィナート
■内容：詳細以下のとおり
①参加者数：88名(内女性6名)
②ご来賓：秋朋会(名取キャンパス)、熊本高専(旧熊本電波)、香川高専(旧詫間電波)
③義援金募金：23,282円
④ふるさと納税制度の説明会
⑤東北大震災の写真・DVD上映
⑥東日本大震災写真集の販売
⑦宮城県産食材の利用：懇親会の一部食材を宮城県産としました。

北海道支部だより

北海道支部長 根本 孝一
(専攻科17期)

大自然に包まれた北海道の素晴らしい紅葉を味わい、駆け足でやってくる冬将軍にヒグマも人間も備えに追われる季節となりました。

北海道支部では、この6月に開催された支部総会において支部長交代がありました。マジシャン会長と伊藤安昌支部長が退任され、本科・専攻科17期卒の根本孝一(北広島市在住)が選出されました。本人は習ったトーンはボケ防止には最高！とばかりに楽しんでます。

ETロボコン初出場

9月3日に岩手県盛岡市のいわて県情報交流センターで開催されたETソフトウェアデザインロボコンに、広瀬キャンパスの学生チーム(専攻科1年齋藤理君、情報工学科5年赤間あさきさん、笹森夏也君、草薨悠君、本間洋光君)が出場しました。東北地区では本校に加え、八戸高専、一関高専、鶴岡高専の4校の高専も大会に参加しました。

本校からETロボコンには初の出場でしたが、2回の試技ともベシックスステージを見事クリアし、会場から大きな拍手が沸き起こりました。スタートさえまならない企業チームもありましたが、夏休みをETロボコンに費やした学生チームの努力が報われた大会となりました。ETロボコンは試技に加えて設計書についても評価されるため、初めて参加したチームはかなり戸惑いますが、学生チームは初出場で32チーム中総合第22位でした。今年のノウハウを来年に活かして、今年以上の成果を期待します。



吹奏楽部第2回定期演奏会開催

仙台高専広瀬キャンパス吹奏楽部部長 武田 久瑠美

平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。とともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

地震に伴い、活動が制限されることが多々ありましたが、なんとか今年も我々が仙台高専広瀬キャンパス吹奏楽部は11月19日(土)の14時から、

電気自動車エコラン 競技大会参戦報告



8月20日、21日に宮城県村田町スポーツランドSCの国際レーシングコースで「2011電気自動車エコラン競技大会」の「エコ」が開催されました。この競技大会は、その意義の高さゆえに本年から仙台高専専門学校も共催することになりました。

本校からは駆動・回生システム研究のための「SMC」2台と「SMC」1台、また、4輪車両に挑戦した「SMC」2台、さらに模型を愛する会「SMC」の3年生が中心になった「地球ひえつべ号」ならびに電子制御99年卒久保敏氏をリーダーとする「OBチームのmoo」も、くわえて、本校名取キャンパス自動車部チーム(石川信幸先生)として、製作教室グループとして、広瀬キャンパス1年女子チームの「AMC」も、電子制

高専ロボコン大会報告

2011

高専ロボコン2011東北地区大会が10月16日に八戸高専で開催され、広瀬キャンパスからは科学部チームと大泉研究室率いる5年生有志チームが出場しました。今年のテーマは「ロボ・ボウル」で、アメフトを題材にした競技です。

科学部チーム(仙台広瀬A)のロボット「GEMAR(イグナリ)」は1回戦で仙台名取Aと対戦。無線トラブルによる再試合となり、先攻で22秒のタッチダウンを決めたが、後攻で仙台名取Aに17秒のタッチダウンを決められ、敗退しました。同校対決は大会の最速タイムを2度塗り替える熱戦となり、会場を盛り上げるとともに仙台高専の強さをアピールしました。

御3年の「エム」チームの「限界突破」、合わせて8台が参加しました。自動車メーカーやモーターカーをはじめ、大学・高校生チームまで今年では合計43チームが集い、レースが行われました。

このレースは、競技規定で指定された規格の鉛バッテリー(公称270Wh)をエネルギー源として、1周約3.7km、10%の長い上り坂を有するコースを2時間何周走行するかを競うレースです。

スタート時刻には無視できないほどの雨が降り、どのチームも追突やスピンを心配して、慎重な走行を行いました。そのため、本年は、周回記録の更新はありませんでした。

例年上位の成績をおさめるメーカーチームが早々にレース棄権をする中、本校からの参加チームは「SMC」が周回4で4輪部門優勝、「AMC」が周回8で、製作教室グループ準優勝、限界突破が周回8で製作教室グループ3位という高成績をおさめました。

本年も後援会をはじめ多くの方々から多大なご支援を戴きました。また「昨年からの参加チームは、電波高専同窓会本部ならびに東北支部からも多大なご支援をいただき、ものづくり教育活動を励ましていただきました。お陰で、全部で8チームが本校から参加できました。チーム同、心から感謝申し上げますとともに、今後多くの皆様のご支援をお願い申し上げます。

5年生有志チームのロボット「蹴飛バース(ケットバース)」は足でボールを蹴り飛ばすオフエンスロボットの対立振子のディフェンスロボットの対立振子でした。1回戦で敗退しましたが、独自のアイデアと技術が認められ、本田技研工業株式会社より特別賞をいただきました。

